

令和 8 年度授業改善推進プラン評価（成果と課題）表

文京区立明化小学校

【第 5 学年】

	成果	課題
国 語	・ 1 学期の知識・技能の到達度は 8 2 %であった。叙述に基づいて、文章がどのような構造になっているか、どのような内容が書かれているかを概ね把握することができた。 ・ 漢詩などの我が国の言語文化に触れ、親しんだり、楽しんだりするとともに、その豊かさに気づき、理解を深めることができた。	・ 漢字の習得の個人差が大きい。漢字ドリルに繰り返し取り組ませたり、漢字小テストの回数を増やしたりして、習得率を上げる。 ・ 7 月に学習した「敬語」を、2 学期以降も重点的に指導する。相手や場面などに応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることができるようにし、日常生活の中でも自然に使えるようにする。
社 会	・ 新しいことを知りたいという意欲をもって、学習に取り組む児童が多い。 ・ 地図帳や資料を活用して、調べる活動を積極的に行うことができた児童が多かった。	・ 学習問題の設定が教師主導になってしまいがちである。児童の気づきや疑問を話し合うことで、課題意識を高めていく。 ・ 調べたことを文章に記述したり、説明したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。多くの児童に意見を出させ、板書で共有することにより、考えるきっかけを作る。
算 数	・ 習熟度別にクラスを分け、自分に合うコースを選んで学習に取り組むことができた。 ・ 授業では、自分の考えを図・式・言葉を用いて、分かりやすくまとめることができる児童が増えた。	・ 1 学期の知識・技能の到達度は 79%であった。教科書の問題に加え、プリントやミライシードのドリルパークを活用し、基礎基本の定着を図る。また、文章問題において、問題文を正確に読み取り、立式することに課題が見られたため、問題文の読み取りを丁寧に行うようにする。

理 科	・実験や観察に興味をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・実験や観察を行う前に、予想を立ててから取り組むことができる。	・自ら立てた予想や仮説を検証するための実験方法を考える力に課題が見られる。実験や資料の提示を行い、自ら立てた仮説を検証するために「何を調べるか」を意識しながら、実験方法を考えるように指導する。 ・実験結果から考察する力に課題が見られる。ノートに実験方法や結果を記録し、記録をもとにデータを比較したり、まとめたりすることで、考察する力を育てる。
音 楽	・器楽については、基礎・基本となる技能が身に付き、思いや意図をもって表現できた児童が多くいた。音を合わせながら、互いに高め合う姿が多く見られた。また、いろいろな教材を通して、音の強弱の変化を生かして表現しようとする姿が見られた。 ・鑑賞については、オーケストラの楽器について関心をもち、それぞれの楽器の音色や重なり合う響きを味わって聴くことができた。	・歌唱については、技能の工夫、また曲想や旋律と歌詞との関係から、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかや意図をもって取り組んでいるかについて、個人差が見られた。曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解につながるよう、リズムや旋律、声部の重なり方などの特徴や歌詞の内容に目を向けられるように手だてを工夫する。また、考えを共有しながら、思いや意図をもって歌唱に取り組めるように指導する。
図画工作	・1学期は、造形的な見方・考え方を働かせながら、感じたことや想像したことをもとに発想を広げ、自分の表したいことをより明確にして作品づくりに取り組むことができた。材料や用具の特徴を理解し、それらを効果的に生かした表現を工夫する姿が見られた。また、鑑賞活動では、作品のよさや美しさだけでなく、表現の意図や工夫についても考え、自分の考えを伝えたり、友人の見方を受け止めたりすることができた。主体的に表現や鑑賞に取り組む態度が育ち、創造的な活動を楽しむ様子が見られた。	・自分の表したいことをもとに構想を練り、表現する力は高まってきたが、目的や意図に応じて材料や表現方法をより効果に選択し、計画的に作品づくりを進める力には個人差が見られた。また、試行錯誤を重ねながら表現を見直し、よりよい作品へと高めていく力をさらに育成する必要がある。今後は、多様な表現方法や作品に触れる機会を充実させるとともに、鑑賞活動を通して多角的な見方や考え方を広げ、自らの表現を深められるように指導する。

体 育	・ほとんどの児童が、各種の運動に積極的に取り組み、約束を守って運動したり、場や用具の安全に留意したりできる。 ・タブレット端末を活用し、自己の動きを振り返ることで、次の学習に生かすことができていた。	・課題について自ら考え、自己の能力の向上のために工夫ができるようにする。 ・基礎的な動きや基本的な運動の定着に差がある。また、苦手な領域に意欲的に取り組めない児童もいる。自らの課題を解決するために活動場所を選んだり、場を工夫したりできる児童を育てる。
家庭科	・お茶の煎れ方や野菜炒めなどの調理、裁縫の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりするなどの実践的・体験的な活動を楽しむ姿が見られた。	・裁縫の玉止め、ミシンなど、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など、個に応じた指導の充実を図る。
外国語	・相手が話す速度がゆっくりであれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができた。 ・英語を通して、他国の文化や考え方に触れることができた。	・語順を意識して簡単な語句や基本的な表現を書き写す、例文を参考にして簡単な語句や基本的な表現を用いて書くなど、コミュニケーションを図る基礎となる資質や能力を育成する。